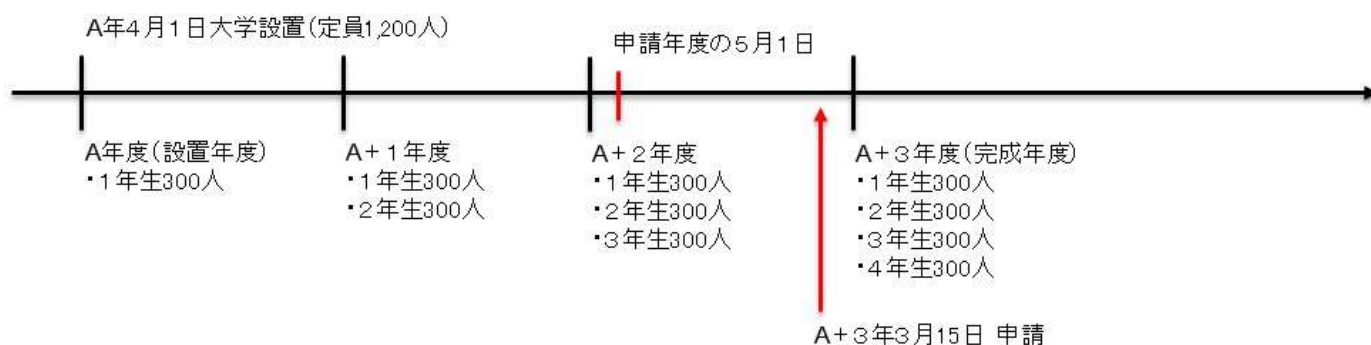


収容定員の充足状況

- (1) 以下の作成例に従って作成してください。
- (2) 申請に係る大学、短期大学及び高等専門学校について作成してください。ただし、大学院、専攻科、別科、募集停止を行った学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等。以下同じ）については作成不要です。
- (3) 収容定員充足率は、認可の申請を行う年度の5月1日現在の学生数を収容定員数で割って算出してください。
- (4) 収容定員充足率は、小数点以下第2位（第3位を切捨て）まで算出してください。
- (5) 収容定員充足率の算出に当たっては、以下の点を踏まえた上で作成してください。
 - ① 大学設置基準第41条に規定する「学部等連係課程実施基本組織」及び短期大学設置基準第3条の2に定める「学科連係課程実施学科」については記載不要です。
 - ② 外国に設ける学部等のうち、開設後修業年限に相当する年数を経過していない学部等については記載不要です。
 - ③ 以下のいずれにも該当する厳格な成績管理を行っている場合に限り、修業年限を超えて在籍する学生（以下「修業年限超過学生」という。）のうち、修業年限を超えて在籍する期間が2年以内の学生（海外の大学、短期大学又は高等学校に留学した修業年限超過学生については、修業年限を超える在籍期間が3年以内のもの数）を控除して収容定員充足率を算出してください。修業年限超過学生を控除する場合には、以下の作成例②に従って作成した収容定員の充足状況を示した表に加えて、以下の各成績管理等に係る取組の概要や公表方法について説明を記載してください。
 - ✓ 毎年度、授業計画書（授業科目、授業の方法及び内容、年間の授業の計画、成績評価の方法及び基準その他の授業の実施に関する事項を記載したものをいう。）を作成し、公表していること。
 - ✓ GPA等（学生等の履修科目に係る成績の平均を数値で表す客観的な指標又はこれに準ずるものをいう。）及びその算出方法の設定、公表及び適切な運用を行っていること。
 - ✓ 成績不振の学生への個別指導を大学として主体的に実施していること。
 - ④ 令和5年2月28日改正の認可基準の附則第2項及び第4項に定める特例（認可基準第1条第1項第3号に定める収容定員充足率の算定に当たり学生の数に含まないもの）の適用を受ける場合は、以下の作成例②に従って作成してください。
 - ⑤ 学部新設後の完成年度までの間は、以下の考え方にに基づき算出してください。

例) A年4月1日に定員1,200人の大学を設置した場合であって、A+3年3月15日に学部新設申請をした場合



○大学の設置後経過した年数：3年

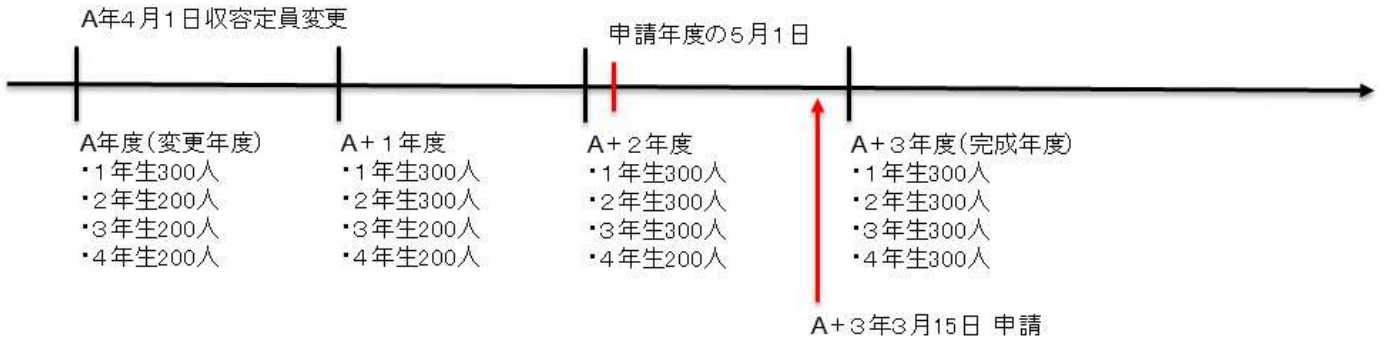
○算式：申請年度の5月1日現在の学生数 / (300人 + 300人 + 300人)

よって、A+3年3月15日の申請を審査する際の収容定員充足率の算定に当たっては、収容

定員 1,200 人を分母とするのではなく、上記算式による 900 人を分母とすることとなります。

⑥ 収容定員変更（増加又は減少）後の完成年度までの間は、以下の考え方にに基づき算出してください。

例) A 年 4 月 1 日に定員 800 人の学部を 1,200 人に変更した場合であって、A+3 年 3 月 15 日に学部新設申請をした場合



○収容定員を変更した日から経過した年数：3年

○算式：申請年度の5月1日現在の学生数 / (300人+300人+300人+200人)

よって、A+2年10月1日の申請を審査する際の収容定員充足率の算定に当たっては、収容定員 1,200 人を分母とするのではなく、上記算式による 1,100 人を分母とすることとなります。

※ 以下の場合については、「収容定員の充足状況に関してよくある質問」(P.4~5)の該当箇所を参照の上、算出してください。

・完成年度を迎えていない秋入学等、年度の途中に入学者を受け入れる学部等がある場合

→ Q1

・学部等連係課程実施基本組織等がある場合 → Q2

・レイトスペシャライゼーションを導入している場合 → Q3

・長期履修学生がいる場合 → Q4

<作成例①：令和5年3月申請の場合>

○収容定員の充足状況

大学・学部等名	収容定員	学生数 (令和4年5月1日現在)	収容定員充足率	備考
霞が関大学 ○○学部 (合計)	1,460	1,477	1.01	
××学科	800	824	1.03	
△△学科	300	291	0.97	令和4年4月開設
□□学科	360	362	1.00	令和4年4月 収容定員変更 変更前収容定員：320 変更後収容定員：400

※学部新設後または収容定員変更後、完成年度前の学部等については、備考欄に当該学部等の開設

時期、変更前の収容定員数及び変更後の収容定員数について記載してください。

- 授業計画書の作成・公表に係る取組の概要及び公表方法
- GPA等の客観的な指標の設定や運用に係る取組の概要及び公表方法
- 大学等が主体的に実施する成績不振の学生への個別指導に係る取組の概要

<作成例②：令和5年3月申請の場合（修業年限超過者を控除する場合及び「大学，短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項を適用した場合）>

○収容定員の充足状況

大学・学部等名	収容定員	学生数 (令和4年5月1日現在)	収容定員 充足率	備考
霞が関大学 ○○学部 (合計)	1,460	1,499 《1,477》	1.02 《1.01》	
××学科	800	868 《824》	1.08 《1.03》	
△△学科	300	291	0.97	令和4年4月開設
□□学科	340	340	1.00	令和4年4月 収容定員変更 変更前収容定員：320 変更後収容定員：400

※学部新設後または収容定員変更後、完成年度前の学部等については、備考欄に当該学部等の開設時期、変更前の収容定員数及び変更後の収容定員数について記載してください。

※《 》内は、修業年限超過学生を控除した場合及び「大学，短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項を適用した場合の学生数及び収容定員充足率を記載してください。

- 授業計画書の作成・公表に係る取組の概要及び公表方法
- GPA等の客観的な指標の設定や運用に係る取組の概要及び公表方法
- 大学等が主体的に実施する成績不振の学生への個別指導に係る取組の概要

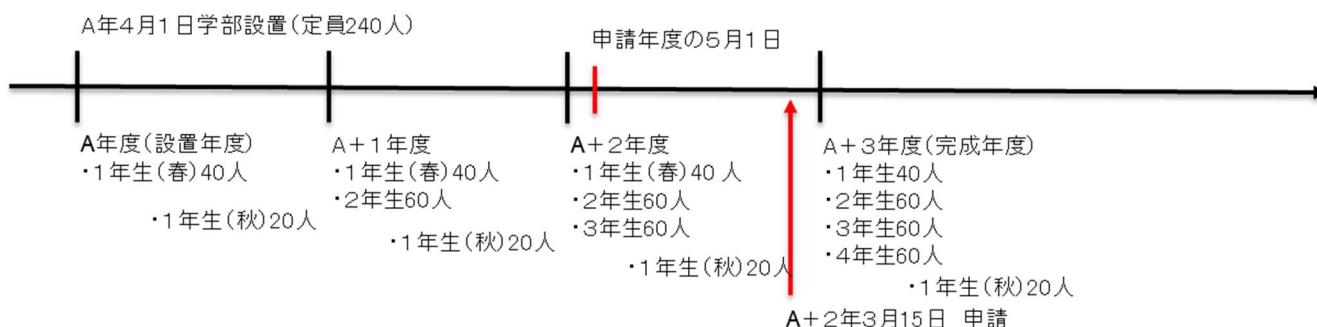
収容定員の充足状況に関してよくある質問

Q1. 完成年度を迎えていない秋入学の学部がある場合の収容定員充足率は、どのように算出するのでしょうか。

A. 収容定員に対応する入学生がいない場合については、その数を収容定員から除いてください。

＜開設3年目のA学部（入学定員60名のうち、20名は10月入学）の場合＞

$$A \text{ 学部の収容定員充足率} = 5 \text{ 月 } 1 \text{ 日現在の } A \text{ 学部の学生数} / (40 \text{ 人} + 60 \text{ 人} + 60 \text{ 人})$$



Q2. 学部等連係課程実施基本組織等を設置している場合の連係協力学部等の収容定員充足率は、どのように算出するのでしょうか。

A. 学部等連係課程実施基本組織等の学生数を、学部等連係課程実施基本組織等の定員に対する各連係協力学部等の内数の割合で連係協力学部等に割り戻して算定してください。

連係協力学部 A 学部（収容定員 160 人）の 24 人，連係協力学部 B 学部（収容定員 240 人）56 人の収容定員を使って学部等連係課程実施基本組織 80 人を設置している場合

$$A \text{ 学部の収容定員充足率} = (A \text{ 学部の学生数} + (\text{学部等連係課程基本実施組織の学生数} \times 24 / 80)) / 160$$

$$B \text{ 学部の収容定員充足率} = (B \text{ 学部の学生数} + (\text{学部等連係課程基本実施組織の学生数} \times 56 / 80)) / 240$$

Q3. 学部の学科ごとに修業年限が異なる場合は学科単位で算定することになっていますが、レイトスペシャライゼーションを導入しており、1年次・2年次は学科に分かれず、3年次から2学科に分かれる場合の収容定員充足率は、どのように算定するのでしょうか。

A. 1年次生、2年次生の在籍学生数を案分の上、算定してください。

＜4年制のA学科（入学定員：40人）、4年制のB学科（入学定員：40人）、6年制のC学科（入学定員20人）の場合＞

$$4 \text{ 年制の } A \text{ 学科の学生数 } (X) = \text{学部全体の } 1 \text{ 年次生} \cdot 2 \text{ 年次生の学生数} \times 40 / 100 + 4 \text{ 年制学科の } 3 \text{ 年次以上の学生数}$$

$$4 \text{ 年制の } B \text{ 学科の学生数 } (Y) = \text{学部全体の } 1 \text{ 年次生} \cdot 2 \text{ 年次生の学生数} \times 40 / 100 + 4 \text{ 年制学科の } 3 \text{ 年次以上の学生数}$$

$$6 \text{ 年制の } C \text{ 学科の学生数 } (Z) = \text{学部全体の } 1 \text{ 年次生} \cdot 2 \text{ 年次生の学生数} \times 20 / 100 + 6 \text{ 年制学科の } 3 \text{ 年次以上の在籍者}$$

$$\Rightarrow 4 \text{ 年制の学科の収容定員充足率} = (X + Y) / (160 + 160)$$

$$\Rightarrow 6 \text{ 年制の学科の収容定員充足率} = Z / 120$$

Q4. 学部等に長期履修学生（大学設置基準第30条の2に基づき、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを認めた学生）がいる場合の収容定員充足率は、どのように算定するのでしょうか。

A. 長期履修学生は修業年限在学することが予定される学生よりも1年間又は1学期間に修得する単位数が少ないことを踏まえ、収容定員充足率を算定する場合の長期履修学生の在学者数は、その実際の人数を、当該学生が計画的に教育課程を履修することを認められた一定の期間で除して得た数に、修業年限を乗じて算出してください。

＜修業年限が4年間の学部で6年間での履修を認められている長期履修学生がいる場合＞
学生数をX、長期履修学生数をY、収容定員をZとすると、
収容定員充足率 = $(X - Y + (Y \times 4/6)) / Z$